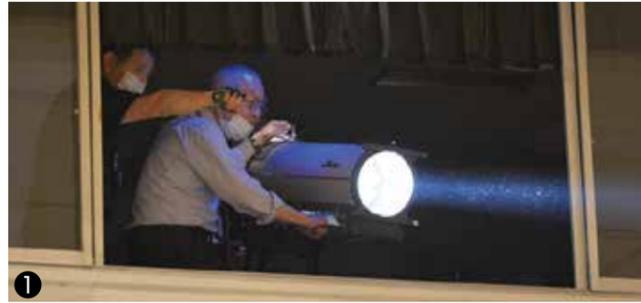


身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。  
【問】企画課広報広聴係 ☎ 77・8425

## 開館に向けて人財育成進む 令和元年度人財育成講座が最終回

12月20日に開館する市民文化会館を支える「人財」を育成しようと昨年から始まったアナウンス講座と舞台スタッフ体験講座。6月26日、両講座合同の最終回が市民会館大ホールで実施されました。最終回では、アナウンス講座の受講生が舞台の上に立ち司会やナレーションを、舞台スタッフ体験講座の受講生は照明や音響を担当。本番さながらの状況に、受講生たちは緊張した表情で臨んでいました。「発声の癖を講師に指摘してもらって勉強になった」「舞台裏はいつもみている表側と別世界。さらに知りたくなった」と受講生は講座を振り返っての感想を話していました。



①⑤スタッフのアドバイスを受けながら照明や音響を操作する舞台スタッフ体験講座の受講生

②③本番さながらの状況で立ち司会やナレーションに挑むアナウンス講座の受講生④的確にアドバイスするアナウンス講座の倉富顕子講師（右）

説明を聞きながら柳川の歴史を学ぶ参加者



## 路 地裏を巡り歴史や文化に触れる 健康・文化ウォーキングを開催

まちづくりネットワーク柳川が主催する「第201回健康・文化ウォーキング」が、6月21日に実施されました。このイベントは、柳川の歴史や文化に触れながらウォーキングを楽しもうと、毎月第3日曜日に開催。この日は「柳河の路地裏散策コース」で、27人が参加しました。市役所柳川庁舎を出発した一行は、三忠苑や三柱神社などを巡回。マスクやフェイスシールドを着用し、小まめに水分を補給するなど新型コロナウイルス対策や熱中症対策をしながら、約4kmのウォーキングで汗を流しました。

講師の田中院長の手際の良さに参加者はくぎ付け



## す ぐに実践できるレシピを伝授 城内公民館が料理教室を開催

毎年恒例となっている城内公民館の料理教室が6月18日、水の郷でありました。今回は新型コロナウイルス感染症に配慮し、例年の半分の人数で開催。講師にニード柳川料理学院の田中利明院長を迎え「すぐに実践できる簡単料理」をテーマに牛肉の柳川風など3品の料理に挑戦しました。田中院長は参加者に水分の飛ばし方や火加減まで細かくアドバイス。参加者は「栄養バランスが考えられていて参考になった。さっそく家で実践したい」と満足そうに話していました。

横一列に並んで上手に苗を植える5年生



## おいしいお米ができるといいな 両開小学校で田植えを体験

6月23日、両開小学校（板橋和宏校長）の5年生25人が、学校の実習田で田植えを体験しました。これは、子どもたちに農業の大変さや食べ物大切さを学んでもらおうと毎年開催。田んぼの中に入ると、ぬかるむ足元と泥の感触に歓声を上げていた児童たち。地元の農家の人や児童のおじいちゃんから植え方を教えてもらいながら、元気つくしの苗を丁寧に植えました。体験した児童は「田植えは、暑くて大変だったけど、おいしいお米ができるといいな」と話しました。

冷たさに歓声を上げながら水をかけ合う児童たち



## 久しぶりの水の感触に歓喜 市内の小学校でプール開き

7月に入り、市内の各小学校でプール開きがありました。例年6月に行われていますが、今年は新型コロナウイルスの影響で各校とも7月に延期していました。東宮永小学校（横溝秀樹校長）では7月9日に実施。最初にプールで授業があった3年生は、プールサイドで水をかけ合い、体を水の冷たさに慣らしてプールの中へ。プールの中では、もぐって水中でじゃんけんをしたり、男女で別れてリレーをしたりと、待ちに待った水の感触に児童たちからは歓声が上がっていました。

## 川柳

今月の入選作品・課題「時」雑詠

悔しいな戻らぬ日々が過ぎていく 津村美優（柳城中3年）

1日という時間は誰にも公平に与えられている。それをどう使うかは一人一人の思いのまま。思い軽ければ1日もまた軽い。悔しい過去は戻らぬが、それを糧として充実した明日は作れよう。青春のつまずきは、大人への入り口。 流青

- |                  |       |         |
|------------------|-------|---------|
| 花咲かん日陰の時を糧として    | 津留和巳  | (六八)    |
| 手のひらもさみしい時の足しになり | 古賀幸子  | (横山町)   |
| 忠実な時計狂いもなく進む     | 吉開綾子  | (筑紫町)   |
| 水田に光りほのめく山の影     | 池田美幸  | (佃町)    |
| 待ちわびた浄土の君に似し赤子   | 堤信子   | (血垣間)   |
| 梅の実が毎日落ちる日暮れ時    | 石橋渡   | (蒲船津)   |
| 時過ぎて戦争語る人も亡く     | 甲斐田園一 | (吉富町)   |
| 噴水の上がる瞬間時止まる     | 古賀麗子  | (吉原)    |
| 時くればお腹の虫が動きだし    | 野片義博  | (隅町)    |
| アルバムに時は過ぎたと教えられ  | 船瀬憲二  | (南長柄町)  |
| コロナ禍に親の法事も引き裂かれ  | 荒巻三ノ  | (南浜武)   |
| 大楠の瘤に耳当て時を聞く     | 野片博之  | (柳河)    |
| 永い時かけて名水湧いてでる    | 佐田輝喜  | (明野)    |
| 庭仕事赤いバイクで知る時間    | 浦哲之   | (栄)     |
| コロナ記事心波立つ時間です    | 佐藤良子  | (蒲生)    |
| おうち時間家が綺麗になりました  | 花島由子  | (柳城中3年) |
| 時は未知だれも知らない世の中だ  | 松藤祐聖  | (柳河小6年) |
| 時の花一人ひとりにさいている   | 富重孝子  | (柳河小5年) |
| 私は時今とけいとどどつてる    | 太田胡桃  | (柳河小5年) |

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。8月の課題は「指」雑詠。入選作品は10月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品（※1人3句以内）に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係（☎77・8425、FAX74・5520）へ、8月20日（必着）までにお送りください。

来し方の波乱を語る指のふし 流青